

スーダン型ソルガムと食品製造粕類の活用 による肥育牛生産

長野県畜産試験場では、牧草タイプで高消化性遺伝子を有するソルガム「涼風」を育成し、2012年に品種登録されました。一方、近年は、飼料価格の高騰や高止まりに伴い、購入飼料の依存度が高い肉用牛肥育経営は、国際市場価格の変動に大きく影響されています。このため、国内産飼料の給与割合を大幅に増加させ、飼料自給を向上させることが重要な課題になっています。そこで、長野県畜産試験場では、育成したソルガムサイレージと食品製造粕類を組み合わせた発酵 TMR を交雑種肥育牛に給与する飼養試験を実施しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. ソルガムサイレージ(涼風)、ビール粕およびトウフ粕を主原料として調製した発酵 TMR を交雑種肥育牛に全期間給与する「試験区」、前期にチモシー乾草、ルーサンペレットおよび配合飼料、中後期に稲わらと配合飼料を給与した「対照区」を設定して飼養試験を行いました。発酵 TMR のソルガムサイレージの混合割合は、原物で前期 32%、中期 0%、後期 14%としました。ビール粕およびトウフ粕のそれぞれの混合割合は、前期 15%、中期 20%、後期 20%で、その他に濃厚飼料および稲わらを混合しました。
2. 「試験区」は、「対照区」に比べて、試験終了時の体重や一日増体重 (DG) が大きな値を示し、枝肉重量やロース芯面積が大きい傾向を示しました。
3. 血漿中のレチノール含量やβ-カロテン含量は「試験区」と「対照区」の間に大きな差はなく推移しました。
4. 粗飼料も含めた給与飼料の TDN 自給率は「対照区」の 4%に対し、「試験区」は 32%と大幅に向上しました。



図1 ソルガム「涼風」



図2 給与試験状況



図3 発酵TMR給与の枝肉断面

☆ 活用面での留意点

飼料成分分析を実施したうえで利用し、飼料の切り替えには4週間程度かけてください。詳しくは、長野県畜産試験場酪農肉用牛部 藤森祐紀 (TEL: 0263-52-1188) にお問い合わせください。
(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)